FRIENDS WITHOUT A BORDER

www.fwab.jp

Voice of friends

NEWSLETTER

フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー ニュースレター
ボイス オブ フレンズ vol.33

contents

- アンコール小児病院自立報告
- ラオ・フレンズ小児病院プロジェクト
- 赤尾和美看護師「今月の出来事」から
- 活動報告
- フレンズロゴ秘話
- 事務局より

© Yumiko Izu

2013年 春・夏号　認定NPO法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー JAPAN

井津建郎から病院スタッフへ「運営の鍵」が渡されました

アンコール小児病院が正式に自立！

2013年1月20日、アンコール小児病院開院14周年の祝いおよび自立式典が執り行われました。

1999年、フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーが熱い思いを注いで設立したアンコール小児病院の開院日に訪れた患者は、たったの4人。現地の住民にしてみると、海の物とも山の物ともわからない何か、だったのかもしれません。その後、信頼と高い評判を得て噂は遠方にまで広がり、のべ100万人以上の患者が訪れるまでに成長・発展しました。

設立当初から、いずれはカンボジア人の手に病院運営をゆだねることを目標としてきましたが、ついに迎えた自立式典の日です。各国から大勢の参列者を迎え、これまでの活動紹介、感謝のこもったスタッフからの挨拶、声援を送る参列者からの挨拶の後、創設者の井津建郎より病院スタッフの代表へ「運営の鍵」を譲渡する儀式をもって、無事、式典を終えることができました。

アンコール小児病院スタッフからの感謝のメッセージ

開院当初から今日まで、医療機器の寄贈、専門教育指導などに関して、計り知れないほどのご支援、ご協力をしてくださった日本のご支援者の皆さまに心より感謝申し上げます。

現在、アンコール小児病院は“自立”を迎え、カンボジア人スタッフは、シェムリアップのみならず、カンボジア全土の子どもたちの命を守るため、その運営の責任を持つ立場となりました。少しずつではありますが、カンボジア人で構成される理事会結成や専務理事の選任が進められています。これらが可能になったのは、日本のご支援者の皆さまはじめ、蒲池先生、日本の若い学生さんの日々の支えのお蔭です。

これからのアンコール小児病院の活動が、カンボジアの未来に繋がっていくことを皆さんにお伝えできるよう努力していきます。ありがとうございました。

サー・ブティ（外科部長）

アンコール小児病院と子どもたちを代表して、開院当初より今日まで支えてくださった日本の皆さまに心より感謝申し上げます。

皆さまのご支援、ご協力なしでは、今の私たちはありません。

これからも自分の子どものように心身こめて子どもたちへ医療を提供し続けていくことをお約束します。

本当にありがとうございました。

ホー・オマ（広報担当）

地域医療支援・保健教育プログラム（CBHEP）への多大なるご支援、ご協力に心より感謝いたします。

カンボジアの子どもたちの命を救うため、皆さまからの寛大なご支援にスタッフ一同心より感謝いたします。

皆さまのご支援は、地域での活動をより効果的にし、また、地域医療の向上につながっています。

本当にありがとうございます。

地域医療支援・保健教育プログラムチームより心をこめて
プーク・アムラ（CBHEPプログラムマネージャー）

左から ピエクトラ副院長、アムラ CBHEP プログラムマネージャー
ブティ外科部長、オマ広報担当

News

アンコール小児病院（AHC）これまでの歩み

これまで、本当に多くの出来事がありました。ご支援いただいた皆さまとともに、振り返ってみたいと思います。

政府から提供された土地に AHC の建設が開始されました。

開院当初のスタッフはたったこれだけ。

初めての患者さんを迎えドキドキ…

入院病棟が開設されるなど、日々、新たなチャレンジがいっぱいでした。

人工呼吸器もなく、24 時間交代で手動で空気を送り込んでいたのが懐かしい。

5 年目にはこんなにたくさんの仲間が！

地域医療支援・保健教育プログラムでは予防教育の大切さを人々に浸透させました。

皆さまのご支援により、医療教育センターが完成。更に教育へ力を入れられる環境ができました。

訪問看護も始まり、活動の幅が広がりました。

毎日勉強の日々を繰り返して、知識と経験を積み重ねてきました。

2009年にはカンボジア人スタッフだけで心臓の手術を初めて行いました。

2 度のデング熱大発生も一致団結で乗り越えました。

アンコール小児病院とカンボジア人スタッフたちがここまで成長できたのは、皆さまのご支援があったからに他なりません。どうもありがとうございました。

私たちフレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーは、アンコール小児病院の理事会に参加し、規模は縮小するものの資金面でのサポートを続けながら、病院の今後の発展を見守っていきたいと思っています。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

News

ラオスでのプロジェクトが動き出しました！

前号でお伝えしたフレンズ創設者・井津建郎の声明の中に、「アンコール小児病院の設立と運営から得た知識と経験を、他のアジア諸国でも活かしたい。また、そうすることが、これまでご支援をいただいた方々への感謝の形になるはず」という言葉がありました。

子どもたちの診療をしながら現地スタッフの教育を行い、地域の衛生・予防教育も行う、というアンコール小児病院の活動は、アジアの医療現場で大きな評価を得ています。“医療・教育・地域支援”の３本柱をそのまま継承する形で、ラオスでの小児病院プロジェクトも進めていければと考えています。

新病院の名前は、「ラオ・フレンズ小児病院」。病院のロゴも決定しました。ルアンパバーン県立病院内での病院建設用地も確保され、設計にも着手しています。また、マネージメントスタッフの正式採用なども行われました。

ラオスはこんなところ！

かつてはインドシナの戦火に巻き込まれ、今もまたアジアの経済危機の影響をストレートに受けたラオスは、海外からの経済援助に頼っています。しかし、その中で暮らす人々の心は常に豊かでほほえみをたたえています。（ラオス政府観光局HPより抜粋）

上空から観たルアンパバーンの街並

毎朝托鉢僧が街を歩きます

ラオスの子どもたち

ラオス山間部の村

ラオスは日本の本州ほどの大きさで国土の70%が山岳地帯。たくさんの民族があり、独自の文化を育んでいます。

ラオスの医療水準は低く、多様な問題を抱えています。視察では、現状の把握や医療施設の改善すべき点などを確認しています。

郡立病院の分娩室

郡立病院のシンク

LAO FRIENDS
HOSPITAL FOR CHILDREN

ラオ・フレンズ小児病院（LFHC）
Lao Friends Hospital for Children

建設予定地（建物は既存の県立病院）

現地測量の様子

LHFCプロジェクト関係者・スタッフ紹介

Dr. Amphone Phalammixay
アンポン・パラムキサイ医師（保健局長）

フレンズの支援にとても感謝しています。

これまで医療にかかれなかった子どもたちへも十分な医療が提供できるようになり、小児の死亡率が下がることを期待しています。

Dr. Bounthiem Siphada
ブンティエム・シパダ医師（ルアンパバーン県立病院院長）

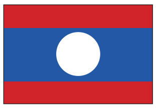
フレンズの支援によりルアンパバーン県立病院における医療サービスの改善、医療スタッフの質が向上することを期待しています。

とても嬉しいです。

Dr.Vannaly Boupha
バナリー・ボォパ医師（健康保険課）

フレンズの支援が多くの子ども達へ笑顔をもたらしてくれると思います。

早くその笑顔を見たいです。



Lao People's Democratic Republic
ラオス人民民主共和国

人 口：626万人（2010年，ラオス統計局）
首 都：ビエンチャン
面 積：24万平方キロメートル
民 族：ラオ族（全人口の約半数以上）を含む計49民族
言 語：ラオス語
宗 教：仏教
産 業：サービス業（GDPの約39%），農業（約28%），工業（約26%）。但し労働人口の約7割が農業に従事。（2010年，ラオス統計局）

※データ：外務省ホームページ

News

ミャンマーへの支援を開始！

ラオスと並び、次の支援先として候補に挙がっていたのがミャンマーでした。ラオスでの病院プロジェクトは、ニューヨークのフレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーと協働していくことが決定しましたが、フレンズJAPANのみでミャンマーでも小さな支援ができないだろうか？ということも検討。私たちが新プロジェクトを発足させるのではなく、地道に良い活動を続けている既存の地元NGOに活動支援を行うことになりました。

規模の小さな支援とはなりますが、まずは6ヶ月間、ミャンマー最大都市ヤンゴンの南東部にある農村で、約2000人の子どもを対象に、地域支援を行っているローカルNGO「ゴールドミャンマー」の移動クリニック活動を手助けしていきます。

ゴールドミャンマー
GOLD Myanmar

ヤンゴンの中心にあるスーレーパゴタ

顔に塗っているのは日焼け止め

地域住民への保健教育

移動クリニックでの診察

赤尾和美看護師の「今月の出来事」から

今回よりラオ・フレンズ小児病院(LFHC)など
新たに始まったプロジェクトを中心にお届けします

赤尾和美レポート

ラオ・フレンズ小児病院（LFHC）プロジェクトの目標達成のためには事前に把握しなければいけないことがたくさんあります。5月には3回ラオスを訪れ、他団体の基礎調査に参加し、村にあるヘルスセンターの状況を見てきました。

3回の訪問のうち2回は、他団体の活動事前調査に同行させてもらいました。管轄する2つの郡の15軒のヘルスセンターを、舗装されていない山道（写真左）をひたすら走り巡回です。7軒のヘルスセンターを回りました。

調査は準備された質問用紙に沿って聞き取りの形式で進めていきましたが（写真中央）1軒に対してたっぷりと1〜2時間はかかり、それは大変な作業でした。調査は、本来備わっているはずの施設や技術、対応がどの程度患者さんへ提供されているのかということを知るための内容でしたが、私たちがやるべきことが山積していると実感です。そんな調査の途中で、山奥にあるヘルスセンターにソーラーシステムが設置されているところ（写真右）を見つけました。環境にも人にも優しい医療を目指しているように感じて嬉しくなりました。

ラオスの医療施設での改善はマネージメント、技術、知識、設備など多分野にわたることがわかってきましたが、特に目に付いたのは、医療廃棄物の処理、院内感染予防についての対応です。使用した針の処理が使用済みのプラスチック点滴ボトルの中に捨てられていて、その針が突き出てしまっていては、医療従事者が使用済み針に残っていた血液から感染症にかかる可能性もあります。

また、医療廃棄物処理のための規定に合った箱が配布され使用されているにもかかわらず、その箱が満杯になった時に処理するシステムがないので、結局、部屋の隅に…箒と一緒に置かれていたりしています。

Act Against AIDS 2012 ロマンチック東北

2012年12月1日　於：八戸ポータルミュージアムはっち

世界エイズデーに合わせて開催された『Act Against AIDS 2012 ロマンチック東北!』というイベントに、当団体の赤尾和美看護師がゲストスピーカーとして参加しました。このイベントは、1993年から続いている音楽業界を中心としたエイズ予防啓発運動で、「AAAコンサート」とも呼ばれ、毎年同時期に全国各地で催されています。

八戸会場は、地元出身のボーカルデュオ・サエラさんと石川ひとみさんのコンサート。赤尾が出演したエイズについてのトークタイムでは、会場の皆さんが真剣に聞き入っていました。

主催者や会場側のご厚意によってフレンズ紹介コーナーも設けてくださり、イベント来場者からは、フレンズに対するご支援やご声援もいただきました。ここでのつながりを、今後の活動に活かしていけたらと思っています。

上：赤尾看護師が参加したトーク
右：サエラさんのコンサート

ピースアート2013

2013年3月30日〜4月2 日　於：ヨコハマ創造都市センター

2001年9.11のニューヨーク同時多発テロをきっかけに、井津建郎をはじめ発起人メンバーの呼びかけで始まったピースアートポスター展。これは、世界のアーティストから平和をテーマにした作品を集めたポスター展で、アメリカと日本を中心に世界各地で開催を繰り返してきたものです。このたび、フレンズJAPANの主催で『ピースアート2013東日本大震災・被災児童支援チャリティーポスター展』として催しました。

初日の3月30日はオープニングイベントも開催。第1部はウォン・ウィンツァンさんとウォン美音志さんのピアノ&ギターコンサート、第2部は、ウォン・ウィンツァンさん（演奏家）、エバレット・ケネディ・ブラウンさん（フォトジャーナリスト、ピースアート作品出展者）、佐藤真紀さん（収益金寄付先団体=JIM-NET事務局長）、当団体の赤尾和美によるトークセッションという構成で、多くの方から高評価をいただきました。

このイベントの収益金はすべて、特定非営利活動法人日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）を通して、福島の子どもたちへの支援活動に充てられました。

左：ピースアート展示会場
右：トークセッション
撮影：太田耕二

グローバルヘルスセミナー2013

2013年5月18日（土）　於：聖路加看護大学

東京都中央区にある聖路加看護大学にて、聖路加看護大学主催イベント「Global Health Seminar 2013 Skills for Action 〜グローバルヘルスを紡ぐ実践力」が行われ、赤尾看護師と、フレンズが設立したアンコール小児病院でボランティア経験のある小児外科医の東間未来さんが、トークセッションに参加しました。

当日は、将来世界で活躍する看護師をめざす学生さんや、カンボジアの支援活動をしている方など、沢山の方が会場を訪れ、二人の話に熱心に聞き入っていました。

また、ブース展示セッションでは他の団体とともに、フレンズスタッフが活動紹介を行いました。「学園祭でフレンズを支援するイベントをやりたい！」という学生さんなど、新しい出会いもありました。

東間さんと赤尾看護師

支援者紹介

大宮西ロータリークラブ

支援者の皆さまとのご縁は、ささやかなきっかけから生まれることが少なくありません。偶然の出会いだったり、思わぬところで思わぬ人とのつながりが判明したり。ほんの少しのアクションから、大きな絆に結びつくこともあります。

大宮西ロータリークラブ様とのおつきあいは、あるテレビ番組がきっかけでした。赤尾和美が紹介されたテレビ番組をたまたま試聴したクラブの会員様から、コンタクトがあったのです。フレンズの活動に感銘を受けたので、ぜひ会ってお話をうかがいたい、ということでした。その後、赤尾がカンボジアから帰国する機会を待って、わざわざフレンズのイベントに足を運んでくださり、病院スタッフの人件費への支援を個人的に決めてくださいました。

実は、人件費を集めるのは、なかなか容易ではないのが実情です。どちらかというと、形あるもの、目に見えるものへのご支援に希望が集中する傾向があります。そうした背景からも、本当にありがたいお申し出でした。

また、さらにありがたいことに、所属しているクラブの活動として何か手助けができるかもしれないので、まずは会員の皆さまに向けて、赤尾の講演会を開きたいとのこと。さっそくスケジュールを調整したのは言うまでもありません。

その後まもなく、大宮西ロータリークラブ様からは、HIV抗体検査用の検査キット購入などにご支援をいただくこととなりました。そこから交流が活発になり、会員の皆さまには、アンコール小児病院に何度も足を運んでいただいています。

先頃、大宮西ロータリークラブ様は、結成50周年を迎えられました。50年の長きにわたり、多くの社会貢献を続けてこられたことに敬意を表します。50周年記念式典の際には、ふたたび赤尾をお招きくださり、講演の機会もいただきました。また、クラブとして、今後もフレンズに対する支援を続ける旨の決定がなされたとの報告もありました。

今後も、共に手を携え、アジアの子どもたちのための医療支援活動を続けていけたら嬉しいです。

アンコール小児病院を訪問した大宮西ロータリークラブの皆さん

ご支援について

アジアの子どもたちを支援する
フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー JAPANに
皆さまのご協力をお願いいたします。

ご支援の方法をお選びいただけます。

- 一般賛助会員　：　年会費1口6,000円
- 学生賛助会員　：　年会費1口3,000円
- 一般寄付　　　：　金額・回数はご自由です

支援者には年2回発行のニュースレターをお送りするほか、
報告会やイベントの案内などをお届けします。

- 正会員　：　年会費1口12,000円
　　　　　　　団体・法人　30,000円

正会員には、ニュースレターや報告会・イベントの案内などをお送りするほか、年1回の定時総会において、団体の意思決定について参加していただけます（委任状の提出も可能です）。

※当法人が定める入会申込書を別途ご提出ください。

ご寄付を希望される方には、専用の郵便口座の振込用紙をお送りしております。ホームページのフォーム、もしくはお電話でご請求ください。郵便局や銀行に備え付けの用紙を使っていただいてもかまいません。

● 郵便口座

加入者名：
特定非営利活動法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー JAPAN
振替番号：**00160－0－546217**

● 銀行口座

銀行名：**三菱東京UFJ銀行 中目黒支店**
口座番号：**普通預金 0420041**
口座名：**トクヒ）フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダージャパン**

● クレジット決済

ご自宅からインターネットを通じ、クレジットカードでご寄付ができます。フレンズJAPANのホームページ**www.fwab.jp**にアクセスし、手順に沿ってお手続きください。

※ご寄付には寄付金控除の可能な領収証を発行いたします。

※銀行からのお振込みや、ご自身の郵便口座より郵便振替で直接送金される場合、お手数ですが必ず、お名前、郵便番号、ご住所をお知らせください。

※アンコール小児病院（カンボジア）に限定したご支援をご希望される方は、その旨を事務局までお知らせください。
（振込用紙使用の場合は"カンボジア寄付"とご記入ください）

※アンコール小児病院に設置するネームプレートは、2012年のご寄付をもって終了いたしました。

フレンズのロゴ秘話

ラオ・フレンズ小児病院（LFHC）のロゴマークが決定したことは、本誌の中でお伝えしました。アンコール小児病院（AHC）と同様、皆さまに親しんでいただけることを願っています。

さて、フレンズといえば「緑のハートマーク」……ですよね？でもそれは、「YES」であり「NO」でもあるのです。どういうこと？

あのマーク、正しくは「ハート」ではなく「若葉」を表しています。デザインしてくださったのは、Asada Design Studioの浅田克治さんと吉田陽子さん。ニューヨークで活躍されているグラフィックデザイナーで、フレンズの各種デザインを担当してくださっています。

デザインにあたっては「AHCが、カンボジア小児医療の新しい芽となり、カンボジアの子どもたちの将来が新しい芽のようにいきいきと力強く育ってほしい」という思いを込めたのだそうです。そこから「若葉」マークが誕生したというわけですね。ラオ・フレンズ小児病院のロゴを見たスタッフの誰もが、「カンボジアと同じように、ラオスにも新しい芽を誕生させられればいいな」という気持ちになりました。

さて、では、なぜ「ハート」が「YES」なの？実は、スタッフや古くからお手伝いくださっているボランティアさんなど、あのロゴマークが「若葉」であることを承知していながらも、あえて「ハート」と呼ぶことが多いからです。団体外の多くの方から「ハート」と言っていただくことが多いため、「ハート」で認識していただいているなら、それを強く否定することもないかな、といったところでしょうか。こうして、何かの機会に「実はあのマークは…」とお話したりしています。これはこれで、ひとつの“団体ネタ”ですね。

事務局より

フレンズJAPANのホームページがリニューアルしました！

ホームページに寄ってくれた方、フレンズのことを知りたいと思ってくれた方に、アレも伝えたい、これも伝えたい、と欲張っているうちに情報量が多くなり、欲しい情報にすぐにたどりつけなかったり、重くなって作動が遅くなったり……という状況に陥ってしまったため、刷新計画がスタート。専門の方に依頼し、見やすく稼動性の高いホームページに生まれ変わりました。

FRIENDS WITHOUT A BORDER
www.fwab.jp

認定NPO法人
フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー JAPAN
〒153-0064 東京都目黒区下目黒 1-7-5-203
Tel / Fax： 03-6421-7903
friends@fwab.jp

Friends Without A Border
1123 Broadway, Suite 1210
NewYork, NY10010 USA
Tel：212-691-0909
Fax：212-337-8052

Angkor Hospital for Children
PO Box 50, SiemReap, Cambodia
Tel：063-963-409
Fax：063-760-452